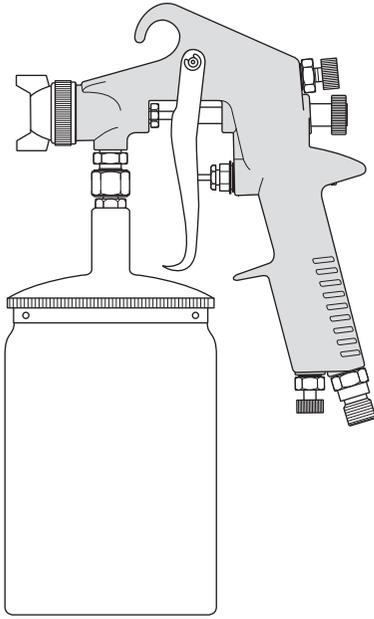


EARTH MAN[®] A7505

吸上式スプレーガン

取扱説明書

この説明書は大変重要です。理解した上でご使用ください。尚、本書は大切に保管してください。



商品仕様

塗料供給方式	吸上式
本体重量 (g) ※カップ除く	390
カップ容量 (mℓ)	600
接続口径 (塗料・空気)	G 1/4
塗料ノズル口径 (mm)	1.5
吹付使用圧力 (MPa)	0.30
空気使用量 (ℓ/min)	130
塗料噴出量 (mℓ/min)	180
吹付距離 (mm)	200
パターン開き (mm)	180
推奨圧縮機 (kW)	0.75 以上
最高使用圧力	0.68MPa



警告

内容を怠った場合、身体に対し重度の障害や、死亡する可能性があります。

- 最高使用圧力以上でのご使用は絶対にしないでください。
- 絶対に人や生き物に向けてスプレーしないでください。
- 洗浄・分解・保守点検作業をする前、作業中断時には必ず圧力を残さずゼロにしてください。
- 使用前に必ず各部の破損、変形、亀裂等がないか、ねじ部分の緩みがないかを確認してください。使用前、使用中に何らかの異常があれば使用をやめ、販売店にご相談ください。
- 使用の際には適切な服装、めがね、マスク、手袋、耳栓等の保護具を着用し、体に危険が及ばないよう万全の装備で作業を行うことを義務付けてください。
- 吹き付け作業は塗装ブースなどを使用し、換気の良い場所で使用してください。
- 塗装環境において火気は厳禁です。たばこ、電気機械等の引火のおそれがある物の近くでは使用しないでください。また、静電気の発生にも十分注意してください。
- 本製品に他の部品、又は製品を付け加えたうえで使用されて生じた事故、及び損害については責任を負いません。

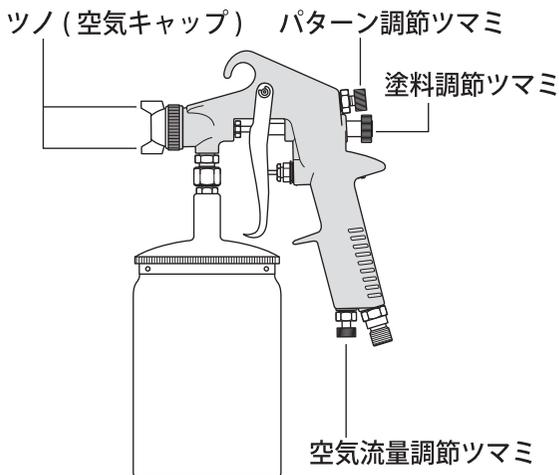


株式会社 高儀

● 使用方法

- ① スプレーガン本体の塗料ニップルに塗料カップ、空気ニップルには付属のプラグを取り付けます。
 - ② 初めて使用する際には、塗料カップにシンナーのみを入れ、塗料通路内部の油分を取り除いてください。
 - ③ 吹付使用圧力は塗料の粘度、性質によって多少異なりますが、0.3MPa前後に設定します。
 - ④ 塗料カップに塗料を入れ試し吹きを行い、空気量・塗料噴出量・パターン幅等の調節をしてください。特にパターン形状は状況により差がありますので、テストパターンを確かめて塗装することをお勧めします。
 - ⑤ 塗装面とスプレーガンの吹き付け距離は200mm程度が適度です。
 - ⑥ スプレーガン本体は塗装面に対し常に垂直にし、できるだけ一定の速度で塗装してください。
 - ⑦ 塗料の性質などにより多少異なりますが、塗料粘度は粘度計で20秒前後が適度です。
- ※ よりきれいな塗装が必要な場合は、エアドライヤー・エアフィルター等のご使用をお勧めします。汚れた空気は塗装不良の原因となります。

● 各部調節方法



- ① 塗料調節ツマミを回して塗料量を調節します。



- ② 空気流量調節ツマミを回して空気流量を調節します。



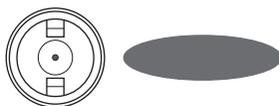
- ③ パターン調節ツマミを回してパターン形状を調節します。
(下記、パターン形状の調節方法をご確認ください。)

パターン形状の調節方法

丸吹き

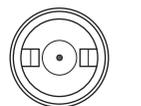


横楕円吹き



ツノを縦方向

縦楕円吹き



ツノを横方向

- パターン調節ツマミを時計回りにすると円型・反時計回りで楕円型になります。
- ツノ (空気キャップ) を縦にすると横楕円型・横方向にすると縦楕円型になります。

● 使用後のメンテナンス

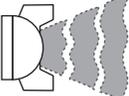
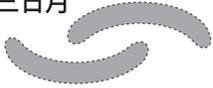
スプレーガンを快適に使用するために、作業後は必ず清掃を行ってください。

※スプレーガン全体・空気キャップセットを溶剤の中に浸さないでください。

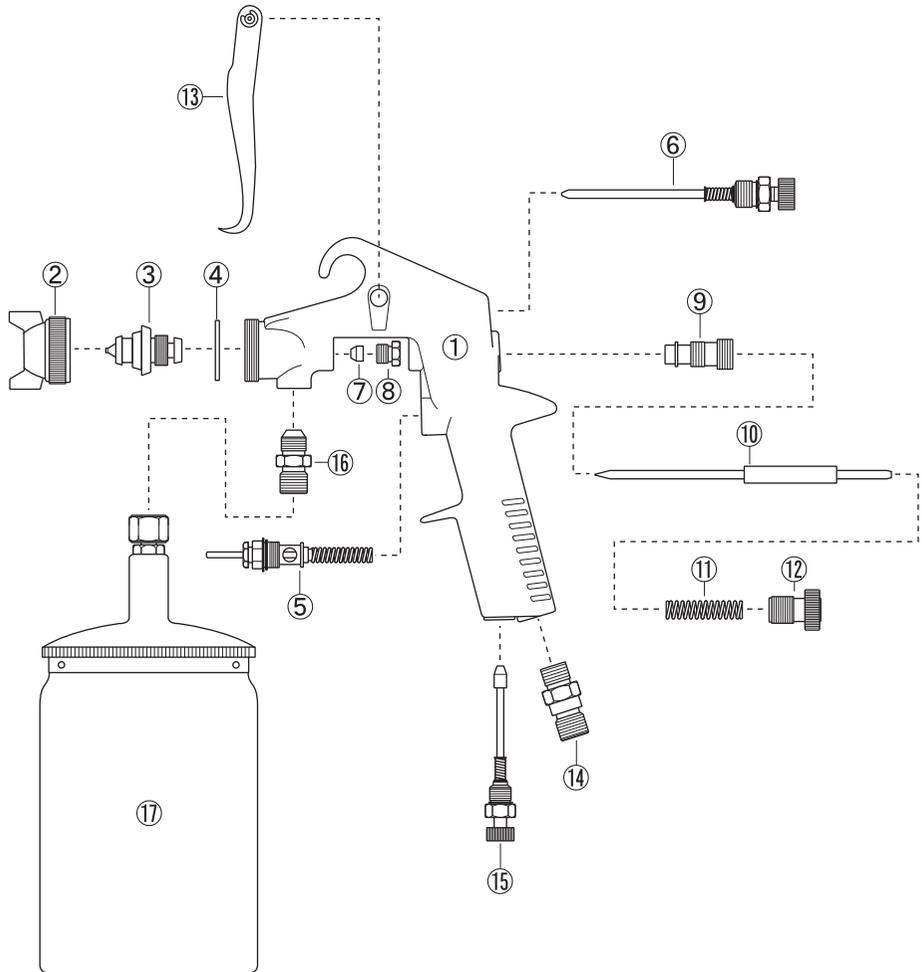
※空気キャップ・塗料ノズルの角穴・ニードル弁は絶対に傷を付けないでください。

- ①塗料カップに少量のシンナーを入れて吹き付け、塗料通路の洗浄をします。
- ②各部の洗浄をシンナーで浸したブラシ、ウエス等で拭き取ります。
- ③塗料ノズルを取り外す際はニードル弁を先に取り外してください。
- ④ニードルパッキン・ナットを調節する際には、ニードル弁を付け、レバーを引いた状態で行ってください。ニードルパッキンナットの締め付けの目安は、ニードル弁の戻りが悪くなった場所から少し緩めた場所が適度です。

● スプレーガンの故障・原因と対策

異常	原因	対策
息切れ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塗料ノズルと本体の間より空気が混入 2. ニードルパッキン部より空気が混入 3. 塗料カップと本体の取付け部より空気が混入、塗料の不足 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塗料ノズルを締め付ける 2. ニードルパッキンをニードル弁が作動する程度に締め付ける 3. 塗料カップと本体をしっかり締め付ける、塗料を補充する
片寄り 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 空気キャップの角穴・塗料ノズルに異物が付いている 2. 空気キャップ・塗料ノズルの変形、傷 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 部品に傷を付けないように異物を取り除く 2. 空気キャップ・塗料ノズルの交換
中くびれ・太り 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塗料粘度が合っていない (塗料粘度が低い・高い) 2. 塗料噴出量が合っていない (塗料噴出量が多い・少ない) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塗料粘度を調節する 2. 塗料噴出量を調節する
三日月 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 空気キャップの角穴に異物が付いている 2. 空気キャップの変形・傷 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 部品に傷を付けないように異物を取り除く 2. 空気キャップの交換
塗料漏れ (塗料ノズル部)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塗料調節ツマミの開き過ぎ 2. ニードルパッキンナットの締め付け過ぎ 3. 塗料ノズル・ニードル弁のごみ・傷・摩耗 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塗料調節ツマミを調節する 2. ニードルパッキンナットの締め付け調節をする 3. 塗料ノズル・ニードル弁の清掃、もしくは部品交換
塗料漏れ (ニードルパッキン部)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ニードルパッキンナットの締め付け調節不良 2. ニードルパッキンの摩耗 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ニードルパッキンナットの締め付けを調節する 2. ニードルパッキンの交換
塗料が出ない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塗料調節ツマミの締め過ぎ 2. 塗料ノズル・ニードル弁の塗料固着 3. ニードルパッキンナットの締め付け調節不良 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塗料調節ツマミを調節する 2. 塗料ノズル・ニードル弁の清掃 3. ニードルパッキンナットの締め付けを調節する
空気漏れ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 空気弁パーツ内部の異物混入 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 空気弁パーツ内部の清掃

● 分解図



1	ガン本体	2	空気キャップ	3	塗料ノズル
4	ノズルパッキン	5	空気弁パーツセット	6	パターン調節パーツセット
7	ニードルパッキン	8	ニードルパッキンナット	9	ニードルソケット
10	ニードル弁	11	ニードル弁スプリング	12	塗料調節ツマミ
13	レバーパーツセット	14	空気ニップル	15	空気流量調節パーツセット
16	塗料ニップル	17	塗料カップ		

※製品改良のため、仕様・外観は予告なく変更することがあります。また、イラストと製品が異なることがありますのであらかじめご了承ください。